

■ 板柳中央病院

○役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

現在の役割を担う。(救急の領域も引き続き担う。)

がん、心疾患、脳卒中の領域は、専門医確保が困難なため、弘前大学医学部附属病院等との連携により取り組む。

医療機能としては、回復期及び慢性期を担う。

【病 床】

減床、転換

【病床規模の最適化に係る検証】

①病床利用率や医療需要（人口減少等）の観点から

医療需要について

板柳町の各年齢階層別推計人口に、厚生労働省 2020 年患者調査の概況に基づく受療率を乗じて患者数を推計したところ、令和 2 年（2020 年）は 155.7 人、令和 7 年（2025 年）は 151.8 人となり、緩やかな減少となるものの、当院の主な利用者層（後期高齢者）は増加しており、現在と同程度と医療需要が見込まれる。

病床利用率について

病院全体の病床利用率は、平成 29 年から令和元年までの 3 ヶ年平均が 76.1%、令和 3 年では 72.8%（一般病床（回復期）：70.2%、療養病床（慢性期）：76.5%）と低下しているものの、今後、休床中の 3 床について、医療提供体制や診療実績を踏まえて減床し、弘前総合医療センター等との医療連携を進め、後方支援病院としての役割や機能を強化することで利用率の改善が見込める。

最大使用病床数について

令和 3 年度の病床機能報告における最大使用病床数は、一般病床（回復期）が 48 床中 40 床、療養病床（慢性期）が、32 床中 32 床となっており、一時的な医療需要の増加を踏まえた場合は、適正な病床規模となる。

以上のように、医療需要の継続や病床利用率の改善が見込めることから、現在の病床規模を維持（休床 3 床は減床）する。

②その他（地域における特殊事情等）

療養病床については、板柳町内に医療対応が可能な介護老人保健施設や介護医療院などの介護施設が無いことから、必要な病床数を維持。

○医療連携の考え方

【基本方針】

弘前大学医学部附属病院やつがる総合病院、弘前総合医療センター等地域において中核的医療を行う基幹病院、田中外科内科医院など地域のかかりつけ医機能を担っている診療所等と、主力診療科である内科を中心に、他の診療科も含め連携を図り、当院単独では対応困難な疾患についても、患者にとって最適な医療を提供できる体制を整えます。

【具体的な医療連携について】

・弘前大学医学部附属病院関係

内科の領域を中心に、弘前大学医学部附属病院への患者紹介、弘前大学医学部附属病院より急性期治療を経過した患者の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。

・つがる総合病院関係

内科の領域を中心に、つがる総合病院への患者紹介、つがる総合病院より急性期治療を経過した患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。

・弘前総合医療センター関係

内科の領域を中心に、弘前総合医療センターへの患者紹介、弘前総合医療センターより急性期治療を経過した患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。

・その他（民間病院等）

内科の領域を中心に、田中外科内科医院など地域のかかりつけ医機能を担っている診療所等より在宅において療養を行っている患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。